

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたいとの関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを ②一領域の協働 ③地域生活と働ける ④生き生きと働ける学校づくり	「なりたい自分」への向かう個々の見届け・一人ひとりの子に居場所をつくる	対話を通して自分の考えをつくり 動き出す力	楽しい授業づくり	楽しい学校づくり	① 児童が自ら学びを進め、楽しく学び力を付ける授業づくりを推進する。	児童が自ら学びを進めるよう、授業改善の3つの見届け(実態・学習状況・定着)と励ましを確実にし、個の主体性と学力の向上を図る。【単元テスト85点以上】 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に仕組み、意図的な対話活動を通して自分の考えの広がりや深まりを実感できるようにする。【授業終末で本時の楽しさと学びを言える。】	B	・学力向上の面では、学年により自己肯定感の差が見られる。引き続き、授業で力をつけたことが実感できること、つけた力を発揮して学習を自分達で進めることを目指して、授業改善に取り組んでいく。
						① ICTを効果的に活用し、「できた」「わかった」「もっと知りたい」を実感できる学習活動を推進する。	タブレット・電子黒板・デジタル教科書を効果的に活用し、自分の考えを伝えること、他者の多様な考えから学ぶことを通して、個の学びを支える。	A	・本校型の対話として、相手と目的を明確に意識し、「自分の考えをもって対話し、次に動き出す」対話の在り方を研究してきた。考えを使って活動したり、考えをまとめたりするよう目的で対話したりすることへの充実感が向上してきた。 ・ICTについて、学年に応じて使用する場面の広がり、スキルの向上が見られる。学習のまとめ、外部への情報発信など、対話をより効果的に行うために活用できるよう、情報リテラシーの指導を続けていく。
						② 「なりたい自分」に向かい、自ら高まろうとする子を育てる。	自分のよさを生かして取り組む姿や過程を認めること、互いのよさを伝え合うことを通して、「願い→挑戦・努力→達成・発信」のサイクルで一人一人の「なりたい自分」に向けた取組を支える。	B	・「なりたい自分」の自己評価・相互評価を行うことで自己理解・他者理解の機会を設けることに努め、温かい人間関係を醸成することができた。 ・自分たちで考え動き出すように挑戦する機会を大切にしたい。児童会活動で全校かくれんぼ・縄跳び大会といった新しい企画を立ち上げ、全校で楽しく過ごす時間を創ることができた。高学年を中心に自分達で考え動く場面を増やすことができた。
						② 学級・学校の宝づくりを通して互いを認め高め合える人間関係を育む。	自分たちで考えやってみる学級活動・児童会活動・縦割り班活動を実践し、全校へ発信することを通して、学級や学校の高まりを実感し、楽しい学校づくりに主体的に参画する意識を育む。	A	・年6回の教育相談の実施、SCとの懇談の活用など、児童一人ひとりと対話し、寄り添って指導支援することを大切にできた。自分の思いや考えを自分の言葉で伝えること、お互いの考えや気持ちを受け止めて協力できるようになることなど、引き続き関わり合って成長できる環境を大切にしたい。
						③ 安心・安全な学校をつくるための対話活動を推進する。	心のアンケートやマイサポーター活動等の教育相談、いじめの未然防止と早期発見・対応、保護者との懇談などにおける対話を通して、どの子も安心して過ごせる居場所のある学校づくりに努める。	B	
						③ 保小中の連携を図り、つながりのある教育活動を推進する。	学校運営協議会、北稜校区保小中連携の会による組織的な活動を通して学ぶ機会の充実を図る。(授業の相互参観、防災教育、地区懇談会、遠隔合同授業等オンライン連携、さわやか登山 など)	B	・北稜校区で大切にできた合同行事・授業は、継続して取り組む中で、工夫・改善を取り入れながら実施した。資質・能力の捉えを再共有して校内研究会で意見交流する、合同引き渡しの方法を共有するなど、各取組を充実させることができた。
						③ ふるさと上宝の資源を生かしたふるさと教育を推進する。	地域の方と連携して、地域の自然・環境・歴史・産業などを学び、学びえたことを発信するとともに、自分の生き方に生かそうとする指導に努める。	B	・地域の協力のもと、総合的な学習の時間を中心に、豊かな体験・学びを行うことができた。今年度は、学習発表会で発信する機会に、探究への一歩を踏み出すことができた。
						④ ICTを効果的に活用した校務と連携の効率化の推進	タブレット・電子黒板・オンライン会議システム・グループウェアを効果的に活用し、校務の効率化と実践交流等の連携を図る。【時間外勤務の削減、年休の計画的な取得】	A	・ICTを活用した会議・打ち合わせの効率化とペーパーレス化に引き続き取り組むことができた。オンライン会議システムを使った学校交流・合同授業や打ち合わせに習熟していくこととあわせ、効率化を図ることが可能な業務改善を模索していきたい。

学校運営協議会における主な評価内容

・対話を重視しており、授業以外にも意見をまとめて発信する経験は、社会にも共通して大切なこととして、引き続き大切にしたい。
 ・子ども達が自ら動き出すことに力を入れていることがよく分かった。児童会での全校かくれんぼなど、自分達からやりたいと言って考え、楽しんで取り組んでいるところがよい。
 ・学校だけの取組ではなく、地域・家庭・事業者など社会とのつながりや、遠く離れた学校との交流が意識されている。氷見交流では、年々自然ないい雰囲気での交流ができるようになっていく。